



学 会 通 信

第 69 号

2014 年 10 月 3 日発行

目次

2014 年度定例会総会開催通知（会告）	2
第 21 回年次大会のご案内【直前号】	8
ICoME 2014 の報告	19
編集委員会からのお知らせ	20
編集委員会・企画委員会の合同ワークショップのお知らせ（第 2 報）	20
第 7 期 第 11 回理事会（臨時）議事録	21
第 7 期 第 12 回理事会（定例）議事録	22
学会費納入のお願い、入会者・退会者	23

2014 年度定例会総会開催通知（会告）

正会員各位

下記により2014年度日本メディア学会定例総会を開催いたします。会員各位の出席をお願いいたします。なお、ご出席されない方は、事務局から送られたメールに記載されている指定の書式を用いて電子メールで委任状をお送りください（2014年10月9日（木）必着）。

2014年9月28日
日本教育メディア学会
会長 鈴木 克明

記

1. 日 時：2014 年10月11日（土）12:30－13:50（第1日目）

2. 場 所：金沢星稜大学 キャリア館 5F C51, 52教室

3. 内 容：

（1）議案

第1号議案 2013年度事業報告及び収支決算承認の件

- ①機関誌発行
- ②年次大会の開催
- ③学術交流等
- ④2013年度収支決算（案）、監査報告

第2号議案 2014年度事業計画及び収支予算承認の件

- ①機関誌発行
- ②年次大会の開催
- ③学術交流等
- ④2014年度収支予算（案）

（2）報告事項

- ①表彰「日本視聴覚教育協会・井内賞」審査経過と結果報告
- ②『教育メディア研究』特集および投稿募集の件
- ③2015年度年次大会の件
- ④ICoME2015の件
- ⑤その他

以上

(1) 議案

第1号議案 2013年度事業報告及び収支決算

2013年度に実施した事業は次のとおりである。

①機関誌発行

1. 「日本教育メディア研究」第19巻2号，第20巻1号を刊行し，会員に配布した。
2. 学会通信第62号（2013年5月5日発行），第63号（2013年7月19日発行），第64号（2013年9月28日），第65号（2013年12月8日発行），第66号（2014年2月3日発行）を刊行し，会員に配布した。

②年次大会の開催

日本教育メディア学会第20回年次大会を，和歌山大学で開催した（2013年10月12日～10月13日）。また，「第20回年次大会発表論文集」を刊行し，申込者に配布した。

③学術交流等

1. 次の研究会を開催した。

- (1) 平成25年度第1回日本教育メディア学会研究会「教育メディアの温故知新／一般」
(2013年7月6日：湘北短期大学)
- (2) 平成25年度第2回日本教育メディア学会研究会「ICTと授業実践・学習支援／一般」
(2014年3月15日：岩手県立大学)

2. ICoME2013を共同開催した。(2013年8月9日～2013年8月11日：日本福祉大学)

3. 企画委員会企画「子ども（幼児・小学校低学年）向けメディア教材を用いた思考をはぐくむ学びと遊びのデザイン」ワークショップを開催した。(2013年12月21日：株式会社内田洋行 東京 ユビキタス協創広場 CANVAS)

4. 編集委員会&企画委員会合同企画「国際連携・国内連携におけるメディア活用」ワークショップを開催した。(2014年2月8日：関西大学 東京センター)

④2013年度収支決算（案），監査報告

2013年度収支決算（案）を次ページに記す。

2013年度 収支決算 (自2013. 4. 1～至2014. 3. 31)

1. 収入の部

収入項目	当初予算	決算額	差額	備考
繰越金	3,080,700	3,080,700	0	2012年度から繰り入れ
正会員会費	1,575,000	1,631,000	56,000	234名分
学生会員会費	88,000	76,000	▲ 12,000	19名分
団体会員会費	300,000	250,000	▲ 50,000	5団体分
購読会員会費	70,000	42,000	▲ 28,000	6会員分
過年度正会員会費	322,000	446,000	124,000	のべ64名分(2010年度に2000円入金済みの会員が含まれている)
過年度学生会員会費	20,000	8,000	▲ 12,000	のべ2名分
過年度団体会員会費	0	0	0	
過年度購読会員会費	0	0	0	
入会金	30,000	64,000	34,000	32名分
雑収入	100,000	185,108	85,108	別刷り印刷 154,000円, 論文誌販売 25,350円, 利子 1,108円, その他 5,000円
計	5,585,700	5,782,808	197,108	

2. 支出の部

支出項目	当初予算	決算額	差額	備考
通信運搬	300,000	168,090	▲ 131,910	学会誌・別刷送料
消耗品	100,000	80,509	▲ 19,491	消耗品費
設備・什器	0	0	0	
印刷製本	1,200,000	844,015	▲ 355,985	学会誌 19(2), 20(1), 別刷・製本 ※ 20(2)は2014年度に会計処理
会議費	100,000	11,853	▲ 88,147	弁当・お茶代(11,853円)
国際会議開催補助費	350,000	▲ 139,860	▲ 489,860	助成金、協賛金、参加費による黒字
借損料	50,000	0	▲ 50,000	会議室を無料で借りることができたため
旅費	200,000	190,560	▲ 9,440	
諸謝金	500,000	480,000	▲ 20,000	
年次大会委託費	400,000	▲ 9,009	▲ 409,009	協賛金、参加費による黒字
研究会委託費	200,000	96,065	▲ 103,935	
企画委員会委託費	200,000	96,669	▲ 103,331	
雑費	60,000	44,550	▲ 15,450	振込手数料(4,830円), オンライン口座管理費(9,450円), ホスティングサーバー料金(23,760円), DNS料金(7,560円)
予備費	1,925,700	105,000	▲ 1,820,700	弁護士料(75,000円), ロゴマークブラッシュアップ料(31,500円)
次年度繰越金	0	3,814,366	3,814,366	2014年に繰り越し
計	5,585,700	5,782,808	197,108	

第2号議案 2014年度事業計画及び収支予算案

2014年度に実施する事業は次のとおりである。

①機関誌発行

1. 『日本教育メディア研究』第20巻2号，第21巻1号，第21巻2号を刊行し，会員に配布する。
2. 学会通信第67号～第71号を刊行し，会員に公開する（メーリングリスト，Webサイト）。

②年次大会の開催

日本教育メディア学会第21回年次大会を，金沢星稜大学で開催する（2014年10月11日～10月12日）。また，「第21回年次大会発表論文集」を刊行し，申込者に配布する。

③学術交流等

1. 次の研究会を開催する。

(1) 平成26年度第1回日本教育メディア学会研究会

(2014年7月13日（日）：長崎県立大学（佐世保キャンパス）)

(2) 平成26年度第2回日本教育メディア学会研究会

(2015年2月21日（土）：愛知教育大学)

2. ICoME2014を開催する。(2014年8月25日～8月28日（木）：ソウル Korea University)

3. 次のワークショップを開催する。

(1) 企画委員会企画ワークショップ「解明：デジタル教科書の現状と展望」

(2014年9月27日：内田洋行東京ユビキタス協創広場CANVAS)

(2) 企画委員会・編集委員会合同企画ワークショップ「教員養成・現職研修におけるメディア活用」

(2015年2月7日：奈良教育大学)

④2014年度収支予算（案）

2014年度収支予算（案）を次ページに記す。

2014年度予算（自2014.4.1～至2015.3.31）案

1. 収入の部

収入項目	前年度決算	予算額	備考
繰越金	3,080,700	3,814,366	2013年度から繰り入れ
正会員会費	1,631,000	1,659,000	7,000円×237名（納入率70%）
学生会員会費	76,000	104,000	4,000円×26名分（納入率70%）
団体会員会費	250,000	300,000	6団体
購読会員会費	42,000	70,000	10会員
過年度正会員会費	446,000	308,000	7,000円×44名分（未納者の40%）
過年度学生会員会費	8,000	24,000	4,000円×6名分（未納者の40%）
過年度団体会員会費	0	50,000	1団体
過年度購読会員会費	0	28,000	4会員
入会金	64,000	30,000	15名分
雑収入	185,108	100,000	別刷り印刷、印税、雑誌販売
計	5,782,808	6,487,366	

2. 支出の部

支出項目	前年度決算	予算額	備考
通信運搬	168,090	300,000	学会誌・別刷郵送費
消耗品	80,509	100,000	消耗品費
設備・什器	0	0	
印刷製本	844,015	1,200,000	教育メディア研究20(2)・21(1)・21(2), 封筒, 別刷
会議費	11,853	100,000	理事会・各種委員会・事務局会議費
国際会議開催補助費	▲139,860	350,000	ICOME2014開催補助費（2014年度分）
借損料	0	50,000	理事会・各種委員会会議場借料
旅費	190,560	200,000	監査に係る旅費, 事務員旅費
諸謝金	480,000	500,000	事務局補助謝金
年次大会委託費	▲9,009	400,000	年次大会開催委託費
研究会委託費	96,065	200,000	研究会委託費 2回分
企画委員会委託費	96,669	200,000	企画委員会委託費
雑費	44,550	60,000	振込手数料, ホスティングサーバー料金（23,760円）, DNS料金（7,560円）
予備費	105,000	2,827,366	
次年度繰越金	3,814,366	0	
計	5,782,808	6,487,366	

(2) 報告事項

- ①表彰「日本視聴覚教育協会・井内賞」審査経過と結果報告
- ②『教育メディア研究』特集および投稿募集の件
- ③2015年度年次大会の件
- ④ICoME2015の件
- ⑤その他

第 21 回年次大会のご案内【直前号】

大会実行委員長 村井万寿夫（金沢星稜大学）

I 開催期日・場所等

- ・開催期日：2014年10月11日（土）～ 12日（日）
- ・開催場所：金沢星稜大学 〒920-8620 金沢市御所町丑10-1
- ・年次大会サイト URL: <http://murai-labo.sakura.ne.jp/>

II 大会日程

■10月11日(土)

時 間	内 容
9:30～	受 付
10:00～11:30	公開授業（持ち込み授業）と振り返り 金沢市立小坂小学校6年3組（児童31名）の国語の授業を山口眞希教諭が行う。自分が考える「平和」について友達にスピーチするため、自分の根拠となる資料を作成する。一人1台のタブレット端末の学習環境下において、それぞれの課題を自分で解決していく学習計画を立て、本時では作成する資料がスピーチに説得力を持たせるものになるように自分なりのこだわりを持って友達と意見交換をする時間とする。 司会：中川 一史（放送大学）、聞き手：佐藤 幸江（金沢星稜大学）
11:30～12:30	昼 食 * 昼食時間帯に「論文投稿について語るランチセッション」を行います。
12:30～13:50	日本教育メディア学会総会 * 総会時間帯に開催校学生企画を実施する（非会員向けの催し物です）。
14:00～15:30	一般研究発表 ：1件あたり15分発表（質疑と交代を含む）
15:45～17:00	シンポジウム I 『教育の情報化』 ・登壇者：豊嶋 基暢（文部科学省生涯学習政策局情報教育課長） 鈴木 克明（熊本大学教授） ・聞き手：村井万寿夫（金沢星稜大学教授）
17:30～19:00	懇親会 （金沢星稜大学内学生食堂にて）

■10月12日(日)

時 間	内 容
9:30～	受 付
10:00～12:00	課題研究発表 課題研究 I：テレビの歩みと教育 担当：稲垣 忠（東北学院大学） 課題研究 II：幼児教育とメディア 担当：堀田 博史（園田学園女子大学） 課題研究 III：情報活用能力の育成と評価 担当：後藤 康志（新潟大学）

12:00～13:00	昼 食
13:00～14:30	一般研究発表（1件あたり15分発表5分質疑）
14:45～16:45	<p>シンポジウムⅡ『デジタル教科書』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登壇者：東原 義訓（信州大学教授） <li style="padding-left: 2em;">森下 耕治（光村図書出版企画開発本部開発部長） <li style="padding-left: 2em;">川井 勝弘（金沢市立花園小学校教諭） <li style="padding-left: 2em;">平瀬 方識（石川県立金沢錦丘高校教諭） <p>・コーディネーター：黒上 晴夫（関西大学教授）</p>

Ⅲ 年次大会参加費等

		9月12日(木)までに支払いの場合	当日支払いの場合
参 加 費	会 員	5,000 円	6,000 円
	学生会員	3,000 円	4,000 円
	非 会 員	6,000 円 ※教員の場合 2,000 円 ※学生の場合 4,000 円	7,000 円 ※教員の場合 2,000 円 ※学生の場合 5,000 円
冊子（追加分）		3,000 円（郵送料 500 円） ・参加費に年次大会冊子（1冊）が含まれています。	
懇親会		5,000 円（学生 3,000 円） ・懇親会場の準備の都合上、当日参加不可の場合がありますので、事前の参加申し込みと入金をお願いします。	

※非会員の教員の場合の参加費は、これまでの本学会年次大会に倣って特別の設定となっています。できるだけ多くの参加者を集めて学会の認知や入会を促す意図がありますので、ご了承願います。また、周りの方へのお声かけもよろしくお願いいたします。

Ⅳ 昼食について

- ・基本的に参加者各自でお願いいたします。
- ・大会1日目は学食が営業しています。また、学内にコンビニがあります。
- ・大会2日目は学食が休業しています。学内のコンビニも休業していますが、大学から徒歩3分のところにコンビニがあります。
- ・上記のように昼食に少々ご不便をおかけいたします。あらかじめご承知おきください。
- ・数量限定で弁当を準備いたします。1食1,000円で販売します。予約はできませんので昼食時に受付までおいでください。売り切れの際はご容赦ください。

Ⅴ 会場までのアクセス

【金沢駅から】

- ・JRバス（東口4番のりば）牧線、鳴和・星稜高経由、東長江または小二又方面行き「星稜高校」（乗

車時間約15分)下車徒歩1分。

- ・東口4番のりばから発車するその他のJRバスは、すべて「鳴和」下車、徒歩10分。
- ・北陸鉄道バス(1番のりば)柳橋方面行き「鳴和」(乗車時間約15分)下車、徒歩10分。車で10分(タクシーで約2,000円)。

【東金沢駅から】

- ・車で3分。徒歩20分。
- ・金沢星稷大学・星稷高校行き「星稷高校」(約3分)下車、徒歩1分。

VI 年次大会事務局について

年次大会に関するお問い合わせは、下記までお願いいたします。

■年次大会事務局

金沢星稷大学人間科学部 村井万寿夫(〒920-8620 金沢市御所町丑10-1)

直通電話 076-253-3942 メールアドレス murai@seiryu-u.ac.jp

大会プログラム 第1日/10月11日(土)

【公開授業】第6学年 国語科学習指導案

C52教室(5階) 10:00~11:30

指導者 金沢市立小坂小学校教諭 山口 眞希

1. 単元名 自分の考えを明確に伝えよう～「平和」について考える～

2. 目標

- ・明確な意見を持った文章を読み、自分の考えをまとめようとする。(関心・意欲・態度)
- ・平和をめぐる自分の意見が説得力を持つように具体例や資料を集め、意見を明確に伝えるために文章全体の構成の効果を考えながら書くことができる。(書くこと)
- ・自分の主張を明確に伝えるために、相手の理解を深められるような資料を作成し、それらを活用して主張したり、話し手の意図は何か考えながら聞き、助言や提案をしたりすることができる。(話すこと・聞くこと)
- ・書き言葉と話し言葉の違いに気づくことができる。(言語事項)

3. 指導にあたって

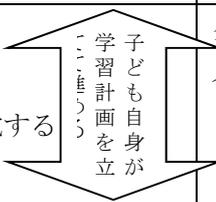
本単元は「意見文を書く」「プレゼンテーションする」という二種類の言語活動を想定した単元であり「書くこと」と「話すこと・聞くこと」の複合単元となっている。本教材では、資料『平和のとりでを築く』をきっかけに、平和についての自分の考えを持ち、自分の意見の根拠となる資料を集めながら、意見文やプレゼンにして発信するという活動が中心となる。自分の考えを意見文にまとめる過程では、出会った資料と要旨の整合性を判断したり、関連づけたりするなど思考を働かせなければならない。また、自分の主張をより明確に伝えるために構成や提示する資料を工夫する必要もある。このような学習過程を通して思考力・表現力を高めていける教材である。

自分が考える平和についてプレゼンテーションする際には、考えの根拠となる資料をタブレット端末で作成する。一人に1台のタブレットという学習環境を保障し、自分の考えをより明確に伝えるために

どんな資料を選択するか、提示資料と発表内容の整合性はあるかなど、一人一人がこだわりを持って学習を進められるようにする。

また、学習意欲を喚起し、持続した学びを展開していくためには、子どもたち自身がこの学習のゴールを明確に意識することが必要である。本単元では「6年生平和集会」をすることに加え、プレゼンテーション動画を Web サイトにアップして発信することを学習のゴールとして設定し、見通しをしっかりと持って活動させたい。

4. 単元計画（総時数 16 時間＋課外）

学習内容	活用メディア
第一次 「平和」に対するイメージを広げよう（3時）	
① 自分の知識や資料から、今、平和なのか考える。学習のゴールを知り、見通しを持つ	写真資料、動画、新聞記事、電子黒板
② 「平和」のイメージを広げ、イメージマップをつくる	ホワイトボード
③ 資料「平和のとりでを築く」を読み、筆者・大牟田さんの考える平和について理解する	デジタル教科書 電子黒板
第二次 自分の考える「平和」について意見文を書こう（6時）	
① イメージマップや教科書の意見文をもとに、「どうすることが平和につながるか」考え、「意見の中心」とする	デジタル教科書 電子黒板
② ③ 自分の考えの根拠となる資料を集める	インターネット、図書資料、新聞、タブレット端末
④ 教科書の意見文の工夫点を見つけ、説得力のある意見文の構成や書き方を考える	デジタル教科書 電子黒板
⑤ ⑥ 意見文を書く	
第三次 自分の考えを伝えよう（7時＋課外）	
① 教科書を参考に、書き言葉と話し言葉の違いを考える	デジタル教科書 ホワイトボード
② ～ ⑥意見文を発表原稿に書き換える <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-right: 10px;">本時</div> <div style="flex-grow: 1;"> <p>プレゼンテーションが説得力を増すような資料を作成する</p> <p>プレゼンテーションの練習をする</p> </div> <div style="text-align: center; margin-left: 10px;">  </div> </div>	タブレット端末 インターネット
⑦ 「6年生平和集会」を開き、友達と考えを伝え合う	タブレット端末
課外 インターネットに動画をアップし、多くの人に伝える	インターネット

5. 本時の学習（第三次中4時）

(1) 題 目 プレゼンテーションの準備をしよう

(2) ねらい 自分の主張を明確に伝えるために、相手の理解を深められるような資料を作成することができる。(話すこと・聞くこと)

(3) 学習過程

学習活動	時	児童の意識の流れ	指導・評価◎				
1. 課題をつかむ	5	<p>〈聞き手に自分の考えを納得してもらえ ようなプレゼン資料を作成しよう〉</p> <p>○今日は何をやるのか、計画を立てよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼン画面を仕上げるよ ・完成した画面を友達に見てもらおうよ 	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の学習の進行状況に応じて、今日の活動内容をはっきりと決めさせる 				
2. 自分の計画に沿って活動する	15	<p>○自分が立てた計画に沿って活動しよう</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>画面作成を進める</td> <td>画面について助言し合う</td> <td>プレゼンの練習をする</td> <td>発表原稿を手直しする</td> </tr> </table>	画面作成を進める	画面について助言し合う	プレゼンの練習をする	発表原稿を手直しする	<ul style="list-style-type: none"> ・コーナーを設け、活動内容が同じ子ども同士、関わり合いながら学習できるようにする
画面作成を進める	画面について助言し合う	プレゼンの練習をする	発表原稿を手直しする				
3. プレゼン画面を見直すポイントを共有する	10	<p>○自分のスピーチに説得力を持たせるプレゼン画面になっているかな？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料と内容の整合性 ・全体の構成 ・文字数や文字強調箇所 	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼン資料が原稿の内容を補足するものになっているか考えるため、例を出しながら見直しの視点を与える 				
4. 見直しのポイントに沿ってプレゼン画面を見直す	10	<p>○見直しのポイントに沿ってプレゼン画面を見直そう。班でアドバイスし合うといいね。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もっと伝わる写真に変更したらどう？ ・難しい言葉があるからテロップが必要だ ・プレゼン画面は良いが原稿を直そう ・画面も原稿も OK。スピーチ練習に進もう 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分では気づかない修正点に気づけるよう、グループでアドバイスし合う 				
5. 学習をふり返り、次時の見通しを持つ	5	<p>話す内容とプレゼン画面が合っていない部分があった。アドバイスをもらった箇所を直したら、より聞き手に納得してもらえそうなプレゼンになりそうだ。次の時間に修正して、発表練習をするよ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◎相手の理解を深められるプレゼン画面を作成している(画面、ノート) 				

大会プログラム 第1日 / 10月11日 (土)

A 1 一般研究 C23教室 (2階) 14:00~15:30

A1-1 心に残る映像表現の構成に関する基礎的研究 (1)

三宅 正太郎 (福山大学)

- A1-2 コミュニケーションと教育ー初年次教育科目におけるアクティブ・ラーニングの分析ー
石川 勝博（常磐大学）
- A1-3 短期大学におけるメディア利用による主体的に気づく力の醸成
菊地 紀子（帝京短期大学） 篠原 文陽児（東京学芸大）
- A1-4 大学における造形ワークショップを題材とした教材映像・活用促進映像の制作実践
宮下 十有（椙山女学園大学） 堀 祥子（名古屋女子大学）
- A1-5 初年次教育における協同学習への取り組みを学ぶ動画教材のデザイン
岩崎 千晶（関西大学）
- A1-6 教員養成大学における小学校教師としての授業設計能力を育成するための授業プログラムの開発と試行
南部 昌敏（聖徳大学） 浦野 弘（秋田大学）

B 1 一般研究 C24教室（2階）14:00～15:30

- B1-1 タブレット端末活用が小学校家庭科「家庭での実践」に与える効果ーワークシート活用との比較からー
永田 智子（兵庫教育大学大学院） 鈴木 千春（兵庫教育大学）
- B1-2 歴史的思考力の育成をめざした「解釈型歴史学習」の実践ーICTを活用した中学校社会科歴史的分野の指導ー
生田 幸士・浅井 和行（京都教育大学大学院）
- B1-3 タブレット端末導入期における活用方法の傾向分析
広瀬 一弥（亀岡市立南つじヶ丘小学校）
- B1-4 教員用タブレット導入時の支援の検討
泰山 裕（大阪市立東高等学校）
- B1-5 小学校におけるタブレット端末の活用傾向の分析ー使用アプリの日豪比較からー
小島 亜華里（関西大学大学院） 泰山 裕（大阪市立東高等学校）

C 1 一般研究 C42教室（4階）14:00～15:30

- C1-1 国際協働学習におけるオンライン活動の現状とその支援
佐藤 慎一・影戸 誠（日本福祉大学）
- C1-2 学生が行う海外での社会貢献活動の分析～学生集団のルールと分業に注目して～
山本 良太（関西大学大学院・東京大学） 久保田 賢一（関西大学）
- C1-3 日韓 協働発表を支えるグローバル・コンピテンシー
影戸 誠・佐藤 慎一（日本福祉大学）
- C1-4 JICA と連携した短期海外研修における学生の学びを促す事前学習
岸 磨貴子（明治大学） 久保田 賢一（関西大学）
吉田 千穂（NPO 法人学習創造フォーラム）

- C1-5 クイーンズランド州中等教育におけるメディア・リテラシー教員の養成科目「映画・メディア・カリキュラム研究」
和田 正人（東京学芸大学） マイケル・デズアニ（クイーンズランド工科大学）

D 1 一般研究 C43教室（4階）14:00～15:30

- D1-1 中学校理科の学習のまとめにおけるデジタルレポートを活用した実践と検証
楠本 誠（松阪市立三雲中学校） 中川 一史（放送大学）
- D1-2 eポートフォリオ・リテラシースキルとデジタルストーリーテリング
田中 洋一（仁愛女子短期大学・熊本大学）
- D1-3 メディア・リテラシー教育におけるプロジェクト学習社会構成主義の観点から
久保田 賢一（関西大学）
- D1-4 思考力育成を目指した授業におけるルーブリックの役割
三宅 貴久子（関西大学大学院） 泰山 裕（大阪市立東高等学校）
小島 亜華里（関西大学大学院）
- D1-5 総合的学習における評価についての考察
村井 万寿夫（金沢星稷大学・明星大学大学院）
- D1-6 学校間の交流学习を進展させるための方略と事例
水越 敏行（大阪大学） 中橋 雄（武蔵大学）

E 1 一般研究 C44教室（4階）14:00～15:30

- E1-1 ICT活用指導力を向上させるための教科教育法授業の開発
寺嶋 浩介（長崎大学） 小清水 貴子（静岡大） 藤山 茜（長崎大学）
- E1-2 ICTを活用した集団活動実践報告
西澤 寛奈・内海 成治・浅井和行（京都教育大学大学院）
- E1-3 教育の情報化へ向けた教員免許更新制講習の取り組み
栗田 るみ子・岡本 覚子（城西大学）
- E1-4 短時間で行う情報モラルの授業づくり研修の評価
前田 康裕・山本 英史・野田 直人（熊本市教育センター）
中川 一史（放送大学）
- E1-5 学習指導要領改訂期の小学校国語科教科書における説明文教材の映像メディアの理解と表現に関する分析
石川 等（甲府市立里垣小学校） 中川 一史（放送大学） 中橋 雄（武蔵大学）
佐藤 幸江（金沢星稷大学） 森下 耕治（光村図書出版）
- D1-6 メディアのなかの・による・としての教育－教育メディア研究の3領域－
小笠原 喜康（日本大学）

シンポジウム I C52教室（5階）15:45～17:00

テーマ：『教育の情報化』

聞き手：村井万寿夫（金沢星稜大学）

登壇者：豊嶋 基暢（文部科学省生涯学習政策局情報教育課）

鈴木 克明（熊本大学）

大会プログラム 第2日／10月12日（日）

K1 課題研究 I テレビの歩みと教育

C51教室（5階）10:00～12:00

担当：稲垣 忠（東北学院大学）

K1-1 小学校教師のNHK学校放送番組・デジタル教材利用の現況と変遷

宇治橋 祐之・小平 さち子（日本放送協会放送文化研究所）

K1-2 補償教育の方法としての「セサミストーリー」に関する課題の現代的意義

佐藤 知条（湘北短期大学）

K1-3 3Dテレビを活用した社会科授業の実践と評価

柴田 隆史・石原 佳樹（東京福祉大学） 佐藤 和紀（北区立豊川小学校）

K1-4 「NHK高校講座」へのニーズの変遷と視聴対象の変化

小田 茂一（愛知淑徳大学）

K1-5 NHK教育テレビが果たしてきた役割—教育実践とメディアリテラシー—

村野井 均（茨城大学）

K2 課題研究 II 幼児教育とメディア

C52教室（5階）10:00～12:00

担当：堀田博史（園田学園女子大学）

K2-1 園児向けIT教育プログラムこどもモードKitSカリキュラム内容と検証方法について

佐藤 朝美（愛知淑徳大学） 野口 哲也（聖愛幼稚園） 小林 照男（株式会社コピーアンドアソシエイツ） 三鍋 明人（コピープリスクールよしかわ） 大澤 香織・井上 篤（株式会社スマートエデュケーション） 池谷 大吾・山内 裕平（東京大学）

K2-2 NHK放送文化研究所における「幼児とメディア」をめぐる調査研究

小平 さち子（NHK放送文化研究所）

K2-3 幼児の安全教育に資するメディア教材の活用可能性

森田 健宏・角野 茂樹（関西外国語大学） 笠井 正隆（関西外国語大学短期大学部） 川瀬 基寛（十文字学園女子大学） 松河 秀哉（大阪大学） 堀田 博史（園田学園女子大学）

K3 課題研究Ⅲ 情報活用能力の育成と評価**C44教室（4階）10:00～12:00**

担当：後藤康志（新潟大学）

- K3-1 情報活用能力の育成と評価
黒上 晴夫（関西大学）
- K3-2 1人1台タブレット端末環境におけるメディア・リテラシー実践と児童・保護者の意識
佐藤 和紀（北区立豊川小学校） 中橋 雄（武蔵大学）
- K3-3 実践から見る「21世紀型情報活用能力」育成の成果と課題
山川 拓（京都教育大学京都教育大学附属桃山小校）
浅井 和行（京都教育大学） 中橋 雄（武蔵大学）
- K3-4 情報教育の3観点を高めるための教員研修の効果
前田 康裕（熊本市教育センター）
- K3-5 情報活用の実践力育成を意図した「学習支援カード」の授業での活用の効果
木村 明憲（京都教育大学附属桃山小学校） 浅井 和行（京都教育大学）
高橋 純（富山大学） 堀田 龍也（東北大学）

A2 一般研究 C23教室（2階）13:00～14:30

- A2-1 メディア暴力の模倣とミラーニューロン
佐々木 輝美（国際基督教大学）
- A2-2 テレビアニメに描かれた父親役割
岸 郁美・佐々木 輝美（国際基督教大学大学院）
- A2-3 大学生の自律的学習と学習メディアのタイプ
高林 友美（国際基督教大学院） 佐々木 輝美（国際基督教大学）
- A2-4 HMD デバイスを前提としたVR学習空間の構築可能性
加藤 亮介・川瀬 基寛（十文字学園女子大学）
結束 孝典・池本 哲也（テレビ朝日メディアプレックス）
- A2-5 E. H. エリクソンのライフサイクルと大河ドラマ教材論
市川 昌（江戸川大学）
- A2-6 社会的表現能力を高める映像教育（3）
大西 誠（愛知淑徳大学）

B2 一般研究 C24教室（2階）13:00～14:30

- B2-1 学生が持つ内在意識の統計分析と携帯メール・Facebookの活用
田畑 圭介・小林 淳一・國田 千恵（金沢学院短期大学）
- B2-2 中等教育でSNSを活用するための方略～個人的利用から学校での利用へ～
二田 貴広（奈良女子大学附属中等教育校 奈良女子大学附属中等教育校）

- B2-3 動画共有サイトの特性を学ぶメディア教育用教材
中橋 雄（武蔵大学） 田中 愛子（武蔵大学）
- B2-4 ARによる指示情報を用いた避難経路誘導における標識のデザインと利用可能性の検討
川瀬 基寛（十文字学園女子大学） 森田 健宏（関西外国語大学）
堀田 博史（園田学園女子大学） 笠井 正隆（関西外国語大学短期大学部）
- B2-5 学校情報の受信手段に対する保護者ニーズ
尾坂 麻美（埼玉県公立小中学校事務職員研究協議会） 野村 正弘（駿河台大学）
前田 雄仁・石田 衣絵・角谷 奈千・望月 直和・新井 伸明・鈴木 由加・堀江 美奈子・
重田 泰彦・丸田 裕子・鈴木 博人・大谷 和幸（埼玉県公立小中学校事務職員研究協議
会）
- B2-6 高齢者向けのパソコンスキルを習得させるための授業デザイン
後藤 宏一朗・井上 彩子・浅野 友美・上田 規子・山本 知宏・八木 友里（関西大学）

C2 一般研究 C42教室（4階）13:00~14:30

- C2-1 批判的思考態度とメディア認知 との関係
後藤 康志（新潟大学）
- C2-2 「メディア・コミュニケーション科」の授業実践（2）
平島 和雄・若松 俊介（京都教育大学附属桃山小学校）
浅井 和行（京都教育大学・京都教育大学附属桃山小学校）
- C2-3 クリティカル分析に対応した絵本のメディア分析モデルにおけるクリティカル分析の評価
川島 佳奈・和田正人（東京学芸大学）
- C2-4 「見る」力と「見せる」力に関する分析
寺岡 聖豪（福岡教育大学）
- C2-5 「書くこと」領域における「見ること」「見せること・つくること」に着目した小学校国語科パン
フレット制作の授業分析
小林 祐紀（金沢市立安原小学校） 佐藤 幸江（金沢星稷大学）
村井 万寿夫（金沢星稷大学） 中川 一史（放送大学）
- C2-6 小学校国語科の表現活動に関する思考力および表現力向上の評価
菊地 寛（浜松市立三ヶ日西小学校） 中川 一史（放送大学）

D2 一般研究 C43教室（4階）13:00~14:30

- D2-1 小学校におけるメディアについての批判的思考力を育てる新教科の開発
浅井 和行（京都教育大学・京都教育大学附属桃山小学校）
山川 拓（京都教育大学附属桃山小学校） 中橋 雄（武蔵大学）

- D2-2 小学校中学年の国語科における学校放送番組を活用したメディア・リテラシー育成の試み
大久保 紀一朗（江津市立津宮小学校） 佐藤 和紀（北区立豊川小学校）
浅井 和行（京都教育大学）
- D2-3 メディア・リテラシーを育てる情報科の授業
岡本 弘之（母被昇天学院中学校高等学校） 浅井 和行（京都教育大学）
- D2-4 ラジオ番組の制作によるメディア・リテラシー教育実践の試み
後藤 心平・堀田 龍也（東北大学大学院情報科学研究科）
- D2-5 メディア・リテラシー教育における学びのスパイラルについての一考察—高校での実践事例から—
藤井 玲子（立命館大学大学院）

E2 一般研究 C44教室（4階）14:00～15:30

- E2-1 小学校国語の指導者用デジタル教科書の活用効果に関する教職年数での比較分析
山本 朋弘（熊本県教育庁） 佐藤 幸江（金沢星稷大学） 中川 一史（放送大学）
- E2-2 小学校国語科における指導者用デジタル教科書を活用した挿絵・写真等の提示場面の考察
中川 一史（放送大学） 佐藤 幸江（金沢星稷大学） 山本 朋弘（熊本県教育庁）
- E2-3 小学校国語科の指導者用デジタル教科書に関する「話すこと・聞くこと」における活用効果の分析
佐藤 幸江（金沢星稷大学） 山本 朋弘（熊本県教育庁） 中川 一史（放送大学）
- E2-4 児童一人ひとりが安心して参加できる国語科学習—ユニバーサルデザインを用いて—
山根 夕佳・浅井 和行（京都教育大学院連合職実践研究科）
- E2-5 いかにして「厳しい教育環境にある家庭」の子どもに言語活動の充実を図るか
杉本 大昂・浅井 和行（京都教育大学大学院）
- E2-6 ユニバーサルデザインの考えを用いた問題解決学習授業の実践—視覚的支援を活用した算数科指導—
山田 博之・浅井 和行（京都教育大学大学院）

シンポジウムⅡ C52教室（5階）15:45～17:00

テーマ：『デジタル教科書』

コーディネーター：黒上 晴夫（関西大学）

登壇者：東原 義訓（信州大学）
森下 耕治（光村図書出版企画開発本部）
川井 勝弘（金沢市立花園小学校）
平瀬 方識（石川県立金沢錦丘高校）

ICoME 2014 のご報告

8月25日から28日にかけて、韓国の高麗大学において ICoME (International Conference for Media in Education) 2014 が開催されました。“Fostering learning through media and technology” がテーマとされ、25日にワークショップ、26日・27日に基調講演と研究発表、28日に大学・企業等の見学ツアーが実施されました。コンカレントセッションに36件、ラウンドテーブルセッションには20件のエントリーがあり、日本・韓国・中国に加えて、インドネシア、フィリピン、アメリカの研究者、学生らによる発表・意見交換が行われました。

基調講演、コンカレントセッションとも、近年、注目を集めている MOOC や反転授業というキーワードが目立っていたように思います。発表会場には、バーチャルスタジオシステムが設置されており、スクリーン上には、発表者とスライドがリアルタイムで合成・提示（スライドのみの提示モードもあり）するように運用されていました。対面で行われる学会発表で活用することの効果には疑問もあるものの（スライドの文字が見づらくなる、目の前に居る発表者をスクリーンに提示する必要があるのか、ラウンドテーブルには適さないのではないかなど）、メディア活用・ネットワーク配信の今後のあり方について考えさせられる1つの取り組みであったように思います。

ラウンドテーブルセッションでは、例年通り、大学院生に加えて学部生による発表が行われ、5件の発表に Young Researcher Award が授与されました。ICoME などを通じたこれまでの交流の成果もあって、韓国の学生と日本の学生が協働で行った調査・研究の成果発表もいくつか見られました。若手が国際会議での発表という試練に取り組み、それを乗り越え、交流を深めている様子が印象的でした。

2015年の ICoME は、8月18日から20日の間、中国の吉林省長春市の東北師範大学にて開催される予定です。



バーチャルスタジオシステム
を用いた発表の様子



日韓の学生による協働発表の様子

日本福祉大学 佐藤慎一

編集委員会からのお知らせ

編集委員会委員長 久保田 賢一

■教育メディア研究 (Vol. 22, No. 1) 投稿論文募集

〆切：2015年1月30日

■特集号「教員養成・現職研修におけるメディア活用」(予定) (Vol. 22, No. 2) 募集のお知らせ

日本教育メディア学会では、22号2巻で「教員養成・現職研修におけるメディア活用 (予定)」の特集論文を組みます。

特集号においても一般論文を受け付けていますのでふるって投稿をお願いします。

〆切：2015年7月30日

編集委員会・企画委員会の合同ワークショップのお知らせ (第2報)

編集委員会委員長 久保田 賢一・企画委員会委員長 中川 一史

■22巻2号特集号「教員養成・現職研修におけるメディア活用」と関わって、編集委員会・企画委員会の合同企画によるワークショップを以下の日程で開催いたします。是非ご参加頂ますよう、よろしくお願ひします。

日時 2015年2月7日(土) 13時—17時 (12時半受付開始)

会場 奈良教育大学

担当：小柳和喜雄 (奈良教育大学；編集委員会)，寺嶋浩介 (長崎大学；企画委員会)

■プログラム

○関連研究に関する話題の提供

研究者，学校教員など様々な立場から，研究を進めている方々に先行研究になりそうな話題を紹介していただきます。その際は，多様な研究手法を扱うことができるようにしたいと考えています。

登壇者

後藤康志 (新潟大学)

加藤由香里 (東京農工大学)

前田康裕 (熊本市教育センター)

○特集号テーマに関するグループワーク

これから本特集号のようなテーマで研究を進めるにあたり、どのような視点で進めるかを議論します。特集号のテーマに関わって、現在自身が進めている研究について、A4・1枚のレジュメを持参してください。それに基づいてグループで議論をして、今後の研究の展開について、ともに考えます。

コーディネータ

今野貴之（明星大学）、寺嶋浩介（長崎大学）

■今後の予定

- ・2014年10月総会において会員に告知，Webでの募集開始
- ・2014年12月はじめ;学会通信における第3報(最終報)での告知
- ・2014年12月末 ワークショップ参加申し込み締め切り
- ・2015年2月7日 ワークショップの実施

第7期 第11回理事会（臨時）議事録

1. 日時 2014年5月11日～2014年5月17日
2. 場所 会則第24条に基づく電子メールによる会議
3. 出席者 会長、理事22名（理事定数25名）
4. 協議事項

※会議に先立ち、会長より会則第24条に基づく電子メールでの会議開催に関する手続きの説明があった。理事は、各議案を承認することについての可否を1週間以内に返信することとした。

(1) 投稿規程の改正について

編集委員会から提案された学会論文誌の投稿規程を改正することについて審議され、承認された。

以上

日本教育メディア学会 事務局長（第7期）
中橋 雄（武蔵大学）

第 7 期 第 12 回理事会（定例）議事録

1. 日時 2014 年 9 月 8 日～2014 年 9 月 15 日
2. 場所 会則第 24 条に基づく電子メールによる会議
3. 出席者 会長、理事 23 名（理事定数 25 名）
4. 協議事項

※会議に先立ち、会長より会則第 24 条に基づく電子メールでの会議開催に関する手続きの説明があった。理事は、議案を承認することについての可否を期日までに返信することとした。

< 審議事項 >

（1）総会資料の件

資料に基づき、総会資料について審議され、承認された。

（2）学会通信台割案の件

資料に基づき、学会通信 69 号から 71 号までの台割案について審議され、承認された。

< 報告事項 >

（1）IJEMT 編集委員会より

ICoME Journal 編集の状況と今後の検討課題について報告された。

（2）井内賞選考委員会より

2014 年度井内賞受賞者が決定し、選考の経緯と結果については次回理事会ならびに学会総会にて報告することが確認された。

以上

日本教育メディア学会 事務局長（第7期）

中橋 雄（武蔵大学）

◆ 学会費納入のお願い ◆

<納入のお願い>

2014年度(2014年4月1日から2015年3月31日)の年会費(正会員7,000円、学生会員4,000円)が未納の方は、下記口座にお振り込みいただくようお願いいたします。

<送金先>

銀行名：ゆうちょ銀行 種目：普通 店番：418 店名：四一八店(ヨソイチハチ店) 口座番号：0865850 名義：日本教育メディア学会(ニホンキョウイクメディアガクカイ)
--

- ※ 振込手数料は、ご負担ください。ゆうちょ銀行口座からATMを使って納入いただく場合、手数料は無料です。
- ※ ご自身のゆうちょ銀行口座以外から振り込む場合は、振込人名義を「学会名簿に登録した会員氏名」にして下さい。それが出来ない場合は振込後、事務局にメールでご連絡ください。大学事務局を通じた大学名による振り込みは、どなたの会費か判断できないため避けていただくようお願いいたします。
- ※ 過年度年会費をまとめて振り込む場合には、学会事務局にご連絡ください。
- ※ 学生会員は、学生・大学院生(社会人学生を除く)です。会費納入に併せて学生証などの証明書類を事務局宛に提出してください(スキャナ、デジタルカメラ等で取り込んだデータのメール添付でも受け付けます)。

◆ 登録情報更新のお願い ◆

本学会では、「学会通信」および重要お知らせを電子メールで会員に配信しております。また、学会論文誌「教育メディア研究」を郵送しております。これらを確実にお届けするために、学会からのメール・学会論文誌が届いていない方は、事務局までメールアドレス、お届け先住所の情報をお送りくださるよう、よろしくをお願いいたします。

【入会者・退会者】※敬称略

新入会員・正会員(9名)・・・渡辺 功、内田 明、延原 みか子、森下 孟、佐藤 朝美、堀 祥子、渡辺 雄貴、大久保 紀一郎、尾坂 麻美
新入会員・学生会員(7名)・・・後藤 心平、岸 郁美、山根 夕佳、生田 幸士、杉本 大昂、西澤 寛奈、高林 友美
退会者・正会員(4名)・・・宮本 友弘、亀山 俊、高島 勇二、片野 俊行
退会者・学生会員(1名)・・・崔 淑敬
種別変更(学生会員→正会員)(2名)・・・平島 和雄、天野 慧

会員総数 393名・16団体
名誉会員：3名
正会員：350名
学生会員：40名
団体会員：6団体
購読会員：10団体
(2014年10月3日 現在)

日本教育メディア学会 事務局

〒176-8534 東京都練馬区豊玉上1-26-1
武蔵大学社会学部 中橋雄研究室内
電話：03-5984-4792 E-mail：office@jaems.jp
学会ホームページ URL：<http://jaems.jp/>

広報委員会

委員長 小柳和喜雄(奈良教育大学)
副委員長 永田智子(兵庫教育大学)
副委員長 村上正行(京都外国語大学)